

**主 題：主イエス・キリストの誕生 1**  
**聖書箇所：ルカの福音書 2章11節**

「きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」（ルカ2：11）。皆さんがよくご存じの天使が告げたメッセージです。天使が羊飼いに語ったメッセージです。「この方こそ主キリストです。」と天使はお生まれになったイエスが「主」とであると告げました。恐らく、皆さんもよく覚えておられると思いますが、主イエス・キリストが弟子たちの所に現われました。復活後のことです。イエスの復活を信じていなかったあのトマスのもとに現われたイエス・キリストはトマスにこのように言われた。ヨハネ20：27「あなたの指をここにつけて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」と。トマスはこのように答えています。28節「私の主。私の神。」と。神がペテロを用いて異邦人への伝道が始まっていきます。最初に救われた人物はコルネリオでした。イタリア隊という部隊の百人隊長でした。ペテロが彼を訪問して彼が救いに導かれた時にペテロはこのように言っています。使徒の働き10：36「神はイエス・キリストによって、平和を宣べ伝え、イスラエルの子孫にみことばをお送りになりました。このイエス・キリストはすべての人の主です。」と。

天使は羊飼いに「お生まれになったイエスは主である」と言いました。トマスも「あなたは私の主である」と言いました。ペテロも言います。「このイエス・キリストはすべての人の主です。」と。天使が告げた主の誕生、この主の誕生が私たちに教える大切な四つのことを見ていきます。

**☆主イエス・キリストの誕生が教えること**

**1. 主の意味**

まず最初に見たいことは、この「主」とはどういう意味か？です。私たちがよく使うし、また、頻繁に耳にすることばです。この「主」とはギリシャ語です。そして、いろいろな意味をもっていますが、大きく分けて三つあります。

a) 敬称として：これはある人たちに対する敬称です。日本語でもだれかに「○○様」とか、また実際に「先生」と言います。これはヘブライ語の「ラビ」ということばと同義語です。ですから、ある人々に対する敬称として使われていたのです。

b) 優劣を現わす人間関係に：例えば、奴隷と主人との関係です。奴隷は主人のことを「主」と呼びました。また、家庭の主人であったり、ローマ皇帝に対しても「主」ということばが使われています。

c) 神に対して：旧約聖書の中で神の名の一つとして挙がっている「ヤーウェ」という名前を皆さんはご存じだと思います。モーセが神から「エジプトに行ってイスラエルの民を解放しなさい。パロにそのように伝えなさい。」という命令を受けた時に、モーセは尋ねます。出エジプト3：13-15「モーセは神に申し上げた。「今、私はイスラエル人のところに行きます。私が彼らに『あなたがたの父祖の神が、私をあなたがたのもとに遣わされました』と言えば、彼らは、『その名は何ですか』と私に聞くでしょう。私は、何と答えたらよいのでしょうか。」：14 神はモーセに仰せられた。「わたしは、『わたしはある』という者である。」また仰せられた。「あなたはイスラエル人にこう告げなければならない。『わたしはあるという方が、私をあなたがたのところに遣わされた』と。」：15 神はさらにモーセに仰せられた。「イスラエル人に言え。あなたがたの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、【主】が、私をあなたがたのところに遣わされた、と言え。これが永遠にわたしの名、これが代々にわたってわたしの呼び名である。」と。

ですから、「ヤーウェ」という名は神ご自身がご自分のことをそのように呼ばれたのです。称号でも何でもありません。これは神のお名前なのです。ヘブライ語の旧約聖書をギリシャ語に翻訳した70人訳聖書では、この「ヤーウェ」という神の名について「主」ということばが使われています。ヘブライ語の「ヤーウェ」をギリシャ語に翻訳した時に「主」ということばを使ったのです。

そこで、「主」ということばの意味についてベーカー神学事典ではこのような定義がされています。「主」ということばは創造者、支配者、また、いのちと死を与える者として、世界と人類の上に働く現実的な力の行使を示すものである」と。つまり、この「主」というのは、すべてのものをお造りになり、そのすべてのものを支配している神だと言うのです。このお方はすべてのことにおいてご自分の力を行使している方、ご自分の思い通りにすべてのことを導いている方、そういう存在だと言うのです。

この神、主について私たちが理解するために、新約聖書の使徒の働き17章を見てください。パウロがギリシャのアテネの町を訪問したとき、アテネの人たちは私たち日本人と同じように、多くの神々を

崇拝していました。その人たちの中であってパウロは、今私たちが話している「ヤーウェ」について「神」について「主」について教えを与えるのです。24-26節「この世界とそこにあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主ですから、手でこしらえた宮などにはお住みになりません。」「神は天地の主である」とあります。「:25 また、何かに不自由なことでもあるかのように、人の手によって仕えられる必要はありません。神は、すべての人に、いのちと息と万物とをお与えになった方だからです。:26 神は、ひとりの人からすべての国の人々を造り出して、地の全面に住ませ、それぞれに決められた時代と、その住まいの境界とをお定めになりました。」、パウロはここで神について三つのことを教えています。

### ◎神について

#### (1) 創造主である

24節に「この世界とそこにあるすべてのものをお造りになった神は、」とあります。25節の後半には「神は、すべての人に、いのちと息と万物とをお与えになった方」、26節にも「神は、ひとりの人からすべての国の人々を造り出して、地の全面に住ませ、」とあります。パウロがアテネの人に教えた神はどういうお方か？その一つ目は「神はすべての創造主だ」ということです。私たちが神として崇拝しているものとは根本的に違います。私たちは自分たちが造り出したものを神として崇拝したり、また、死んでしまった人間を崇拝したり、私たちの先祖を崇拝したりしますが、聖書がいう神は私たち人間をこの自然界をこの宇宙のすべてをお造りになった方です。宇宙に存在するすべてのもの、無数の星も地球上のあらゆる生物、微生物に至るまでのいのちのあるものすべてを創造され、そのいのちを司っておられる方、それが神だと聖書は教えます。

私たちがもっていた神観とは全く違う神をここに見ます。そして、聖書はこの方が神なのだ、この方が神と呼ぶに相応しい方だということを明らかにします。パウロはそのことを、この多くの神々が存在すると信じていた、私たちと同じような信仰をもっていたアテネの人々に教えたのです。神は一人であり、その方はすべてのものをお造りになった方であると。

#### (2) 遍在のお方である

24節の後半に「天地の主ですから、手でこしらえた宮などにはお住みになりません。」とあります。人間というのはどうしても神はこの場所に存在されると思ってしまおうのですが、聖書が教える神は「どこにでもいる」ということです。宇宙の果てにいこうともそこに神はおられるし、黄泉に下ってもそこに神はいます。つまり、どこに行っても神の臨在から逃れることができないと言うのです。あなたがどこに行こうと神はあなたを見ておられるということです。神の目が届かない所はないと言うのです。さらに、あなたの心のすべてを見ていると言います。

#### (3) 自立のお方である

25節「また、何かに不自由なことでもあるかのように、人の手によって仕えられる必要はありません。」、神には不自由なことも不足も全くありません。また、私たちの助けを全く必要としないのです。私たちが「何かをお供えしなければいけない。神様はそれを必要としているから…」と言っても、何も無い、何も必要としないと言うのです。それが神だと言います。恐らく、この話を聞いたアテネの人たちは驚いたでしょう。このような神が存在していることを多くの人たちは知りませんでした。パウロは彼らに対して、神と呼ぶに相応しい真の神は、すべての創造主である、どこにでもおられるお方である、自立しておられる方だと言いました。

ですから、天使が主イエス・キリストの誕生を告げました。「この方は主だ」と言いました。つまり、創造主でありどこにでもおられ、そして、自立しておられる真の神が人となってこの世に来られたというのが天使のメッセージだったのです。私たちはこの神がどのようなお方であるかを見て来ました。イエスは主である、そして、「主」とはどのようなお方を指しているのか、そのことを見て来ました。そして、あなたはその創造主によって造られた被造物です。ということは、神によって造られたあなたには神に対する責任があると言えるのです。

## 2. 主への責任

もし、私たちが学校で学んで来たように進化論が事実だとするならば、私たちはこの世に偶然に生まれて来たのです。この地上での生活を楽しみ、好きなように生きて、そして、死んで行けばそれでいいのです。しかし、聖書はそんなことを教えていません。今、私たちが見て来た聖書の箇所が教えることは、「あなたは造られた」ということです。ということは、神はあなたを目的をもって造ってくださったのです。神はあなたを最高の者としてお造りになり、あなたに対してすばらしい計画をお持ちだと、そのように神が言われます。つまり、そうすることによって神はあなたにあることを教えようとしているのです。「あなたには目的がある。あなたにはこの神に対する責任がある。」と。使徒の働き 17:26

ー27にその責任がこのように記されています。「:26 神は、ひとりの人からすべての国の人々を造り出して、地の全面に住ませ、それぞれに決められた時代と、その住まいの境界とをお定めになりました。:27 これは、神を求めさせるためであって、もし探し求めることでもあるなら、神を見いだすこともあるのです。確かに、神は、私たちひとりひとりから遠く離れてはおられません。」、神があなたを造り、決められた時代に決められた所に置いてくださったのです。あなたがこの国に生まれたことは偶然ではありません。あなたがあなたの家系に生まれたことは偶然ではないのです。神がそのように計画をされてそのように生まれさせてくださったのです。何のためですか？27節に「これは」とあり「神を求めさせるためであって、もし探し求めることでもあるなら、神を見いだすこともあるのです。」と続きます。これが被造物である私たちの責任です。創造主なる神に負っている私たちの責任は「神を求めること」です。すなわち、あなたを造ってくださった神を信じ受け入れることです。そのことを神はあなたに命じておられるのです。

神はあなたから遠く離れておられません。神はご自分の存在を自然界に、また、あなたの心の中に明らかにしておられます。27節の後半に「確かに、神は、私たちひとりひとりから遠くはなれてはおられません。」とあります。つまり、パウロ教えたことは、神がいることは神によって創造された被造物を見たときに分かるということです。自然のその美しさの中に、測り知れない法則の中に驚くばかりの神の知恵を見るときに、私たちに神がおられることを明らかにしています。そして、あなたも神がいることはご存じです。あなたは無神論と言うかもしれませんが、あなたの心の中に神が存在していることをあなたは知っています。それでいながらあなたはその神を信じようとしないのです。今、27節を見て来ました。「神を求めさせるためであって」と。

残念ながら、多くの人たちは神がいることを知っていながら、それがだれなのか、どの神が本当の神なのか、それらを探そうとしません。これまで信じて来たことに満足して、それを疑おうともしません。ときに私たちは「何を信じておられますか？」と聞くと、ある方は「神道です」と言います。「どういう教えなのですか？」と伺ってみると殆どの方が知りません。「私は仏教の〇〇派に属しています。」と言いますが、「それはどういう教えなのですか？」と聞いても、余りよくご存じない。よく分からないものに永遠のいのちをかけてもいいのですか？神が言われていることは「求めなさい。探し求めなさい。」です。「本当の神はだれなのか？この世界を造り治めておられる方がいったいだれなのか探し求めなさい」と言われます。神は「神を見出すこともある」、もし、真剣に神を探し求めるなら、あなたは神を見つけることができると言います。だから、私たちの問題は「探し求めることをしない」ことです。「もういい。これまでもそうだし、私の先祖もそう、親もそうだから、これでいいのだ。」と言って、だれも自分の信じているものが本当の真理なのかどうかを考えようとしません。

パウロは「彼らは神を知ろうとしがらない」と言っています。ローマ1:28に「また、彼らが神を知ろうとしがらないので、神は彼らを良くない思いに引き渡され、そのため彼らは、してはならないことをするようになりました。」と書かれています。人間の問題は、神がいることは分かっているのに、それがだれなのかを探し求めようとしない、知ろうともしないことです。「いいじゃないか、何でも。何かを信じてさえいればそれでいいじゃないか。うちの家族はずっとあるものを信じて来たからそれでいいじゃないか。」と言います。詩篇のみことばを見ましょう。14:1-3「愚か者は心の中で、「神はいない」と言っている。彼らは腐っており、忌まわしい事を行っている。善を行う者はいない。:2【主】は天から人の子らを見おろして、神を尋ね求める、悟りのある者がいるかどうかをご覧になった。:3 彼らはみな、離れて行き、だれもかれも腐り果てている。善を行う者はいない。ひとりもない。」と。みな「どうでもいい」と言うのです。神によって造られていながら、そして、神はあなたがあなたを造った神を探し求めることを求めておられるにも関わらず、「そんなことはどうでもいい。何を信じていてもいっしょだ。」と言って神を知ろうとしないのです。こうして人間は神の前に逆らい続けていると言います。神がご自分を明らかにして、私たちの心の中にも働いて神が存在されることを示しておられるにも関わらず、私たちはその神に対して扉を閉ざして「私には必要ありません」と言うのです。

それだけでも主に対して大きな罪であるのに、私たちはこの神が憎んでおられることを積極的に行ない、この神が愛しておられることをことごとく否定しているのです。この罪に対してパウロはこのように言っています。ローマ1:18「というのは、不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。」と。私たちの罪の様子を「不敬虔と不正に対して」と表現しています。神に対して私たちはいつまで経っても敬うことをしません。この神を神として崇めることもしません。「何でもいい」と言って、人々に対して不正を行ない、そして、神を怒らせていると言います。

まず私たちが、私たちが造ってくださった神に対する責任を考えると覚えなければいけないこと

は、私たちにはこのような責任があることを知っていたかどうかということです。私たちは何となく生まれて来たのではありません。皆さん、造られたのです。そして、あなたを造ってくださった神に対する責任を負っているのです。もっと正確に言えば、あなたはその責任があることをご存じだったはずで、なぜなら、あなたはこれまでに良心の呵責を何度も感じて来られたからです。正しくないことを行なったときに、だれかから言われなくても、あなたの心の中で叫ぶ声があるのです。「あなたのやっていることは間違っている。それは間違っている。」と。その声が心の中で響き、その声があなただを責めるのです。しかし、私たちは言います。「いいよ、みんなやっているのだから、仕方ないよ」と、そのような口実で私たちは自分の本心を欺き、また、考えないようにもして来ました。神はそうしてあなたの心の中にあなたの歩みが間違っていることを示しておられるのです。

皆さんも経験されているでしょう？なぜ、人間の心の中にそのような間違ったことをしたときにそれは間違っていると、丁度、アラームのボタンが鳴るように、私たちの心に語るのでしょうか？なぜ、私たちの心を責めるのでしょうか？神がそのような働いておられるからです。あなたの過ちをあなたに悟らせるために。しかし、悲しいことに、私たちはそのような神の働きに対して、それに耳を傾けようとしません。そして、神の前に逆らい続けているのです。だから、パウロはこのようなメッセージをこのアテネの人たちに語ったのです。

### 3. 主からの警告

続いて使徒 17 : 29 から見てください。「そのように私たちは神の子孫ですから、神を、人間の技術や工夫で造った金や銀や石などの像と同じものと考えてはいけません。:30 神は、そのような無知の時代を見越しておられましたが、今は、どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます。:31 なぜなら、神は、お立てになったひとりの人により義をもってこの世界をさばくため、日を決めておられるからです。そして、その方を死者の中からよみがえらせることによって、このことの確証をすべての人にお与えになったのです。」、パウロは神の前に逆らい続けているこのギリシャのアテネの人々に対して、さばきの警告を与えました。

「あなたにはあなたを造ってくださった神に対する責任がある。あなたはその神を探り求め、そして、その方を信じ、その方を愛して、その方に従うことだ。でも、あなたがたがしていることは、その神に逆らうことだ。それゆえに、神はさばきを警告している。」と。

#### ◎さばきについて

##### 1) さばきの警告 29 節

パウロは「日を決めておられる」（使徒 17 : 31）と語りました。さばきの日はもう決まっている、いつ神がさばきを下すのか、神の中ではもう決められていると言います。クリスチャンの皆さんは覚えておられると思います。ヘブル 9 : 27 「そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、」。聖書は明確に人々に対する警告を発しています。この肉体的な死から私たちは残念ながら逃れることができません。同じように、あなたが神の前に立ってあなたの罪のさばきを受け、そのさばきから逃れることはできないということです。もしかすると、法の目をうまく潜って、うまくやったと言われるかもしれませんが、神はすべてご存じであり、その方の前であなたはさばきを受けなければならない、その日はもう定まっていると言うのです。この警告を与えた神はそのさばかれる理由について説明しています。

##### 2) さばかれる理由

すでに見て来ました。

a) 神を求めないから：神がいることを知っていながら知ろうとしないことです。神はあなたに対して「神を探り求めなさい。神をしっかりと求めて神を信じ受け入れなさい。」と言われます。それにも関わらず、その神を信じようとしません。神に従うよりも自分の欲に従って生きています。神を求めないという大きな罪を犯しているゆえにさばかれるのだと。

b) 神でないものを拝するから：29 節に「神を、人間の技術や工夫で造った金や銀や石などの像と同じものと考えてはいけません。」と書かれていました。人々はこのようなものを神と考えて敬っていたからです。パウロは「それらは神ではない！」と言います。偶像礼拝の罪、彼らは真の神よりも神でない偽りの神を愛しそれに従っているのです。もっと言えば、このような人たちは真の神を憎んでいるのです。そして、偽りの神として神に逆らい続けている神の敵であるサタンを愛して、彼に従順に従っているのです。このような状態だから、このような歩みをしているから、神のさばきが下ると聖書は警告するのです。さばかれる理由についてパウロはアテネの人たちにこのように教えました。

##### 3) さばきの規準 31 節

そして、さばきの規準についても教えています。31 節「なぜなら、神は、お立てになったひとりの人に

より義をもってこの世界をさばくため、」と。神の前に立つときに、神はどのような規準をもってさばくのでしょうか？ここに記されています。神はご自分の好みによってさばきを為されるのではなく、ご自分の義をもってさばかれるのです。つまり、神はご自分の正しさ、その物差しをもって測るということです。ですから、私たちが神の前に少しでも正しくないことをしているなら、さばきに服すると言うのです。神だけが完全に聖い方であり、完全に正しいお方です。このお方がご自分の聖さ正しさにおいて、あなたをさばくと言うのです。いったいだれがこの神のさばきから逃れることができますか？いったい私たちのだれが「神様、私はあなたの前に何一つ罪を犯していません。」と言える人がいますか？この正しい聖い神の前に、この方のみこころに反するありとあらゆることは確実にさばかれます。行動も思いも考えも想像も、あらゆるものは神の前でさばかれます。あらゆる汚れがこの正しい神によってさばかれるのです。私たちは言うかもしれません。「私は人間の中でましな方です。私よりもひどい人をいっぱい知っています。」と。神が言われることは、神ご自身の正しさをもってあなたをさばくということです。大変恐ろしいさばきが警告されています。

#### 4) さばきの確実性 31節

このさばきは確実に起こることをパウロは31節で教えています。「なぜなら、神は、お立てになったひとりの人により義をもってこの世界をさばくため、日を決めておられるからです。そして、その方を死者の中からよみがえらせることによって、このことの確証をすべての人にお与えになったのです。」

a) 主イエスの復活：すべての人が必ず神の義によってさばかれる日が来る、それは、主イエス・キリストがあのかげに架かって死なれた後、三日後に約束通り死からよみがえって来たという事実によって明らかにされたと言うのです。イエス・キリストが死からよみがえって来たことによって、神はあるメッセージを私たちに与えたのです。「あなたは死んで終わらない。死んだ後、あなたは必ずよみがえる。」というメッセージです。よみがえって神の前に立つのです。神に逆らっているあなたはこのさばきを受けると言うのです。

#### b) 聖書にそのように記されている

もう一つ、神のおことばがそのことを明らかにしています。私たちは死んで終わりません。必ずよみがえります。必ず、あなたを造った創造主の前にあなたは立ち、あなたのためにいのちを捨て救いを備えてくださった偉大な救い主から、あなたはさばきを受けます。なぜなら、この神が備えてくださった救いをあなたは自らの意志をもって拒んだからです。神を探り求めるのではなく、神に背を向け続け自分の罪のままに歩んだからです。その方があなたをさばきます。ご自分の義をもってあなたのすべての罪をさばかれます。そこには永遠のさばき、永遠の地獄が待っているのです。

#### 4. 主のあわれみ

さて、パウロはこのメッセージをアテネの人たちに伝えました。もう一度、使徒17:30をご覧ください。「神は、そのような無知の時代を見越しておられましたが、今は、どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます。」と、これは主のあわれみを教えています。確かに、私たちが見て来たように、すべてをお造りになったこの真の神は、その神によって造られたあなたに責任があるということを教えました。その責任を果たすどころか、その神を信じるところか、その神を知っていながら神を拒み、この方の前に罪に罪を重ねているあなたに、神はさばきを警告されました。それでいながら、神はあわれみを示してくださっています。ですから「今は、どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます。」と言うのです。

Q=どうして「悔い改め」を命じておられるのか？

A=それは、赦しがあるから！

主なる神は、あなたのこれまでの罪を、そして、これからの罪をすべて完全に赦してくださるから、「悔い改めなさい」と言われるのです。救いのチャンスがあるから、救いの機会があるからです。天使のメッセージをもう一度思い出してください。「きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。」、創造主なる神が人としてこの世に来てくださったのは、この神に逆らうあなたをその罪から救い出すためです。だから、主イエスは自分から十字架に掛かって、罪のさばきを受けられたのです。あなたの罪のさばきを受けられたのです。あのかげの身代わりの死は、あなたのすべての罪を完全に、そして、永遠に赦す力を持っているのです。皆さん、イエス・キリストの十字架の贖い、あのかげの死はどんな罪人の罪も完全に赦すだけの力を持っています。

そのことの証拠に、イエス・キリストが十字架にお架かりになったときに、二人の犯罪人がともに十字架に掛けられました。犯罪人のみなが十字架で死んだのでありません。十字架に架かるのは重罪人です。しかも、ローマ市民でない者たちです。そのような人たちが十字架に架けられて処刑されたのです。

二人の犯罪人のうちの一人が自分の罪を認めその赦しを神の前にイエスの前に求めました。イエスはこの犯罪人に「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」（ルカ 23：43）と言われました。どんな約束を与えたのでしょうか？「あなたはきょうわたしとともに天国にある」と、罪が赦されたのです。良い行ないをしたわけではありません。教会に通い続けたのでもありません。教会のすべての集會に出たのでもありません。神の前に助けを求めたときに、救いを求めたときに神は救いを与えたのです。どんな罪でもイエス・キリストの十字架は赦すだけの力を持っているのです。私たちの罪を赦してくださるその力を持っているのは、このイエス・キリストの身代わりだけです。この主が忍耐をもって、あなたが主なる神を信じて罪の赦しを得るようにと待っておられるのです。

ペテロはこのように言っています。Ⅱペテロ3：9「主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。」、ペテロも同じことを言っています。神はすべての罪人がこの救いに与るようにと待ってくださっているのです。神はあなたを待っておられます。あなたのためにいのちを捨ててくださった主なる神が、あなたを造ってくださった神が、あなたのために罪の救いを備えてくださり、そして、あなたがその救いに与るようにと待っていてくださっているのです。

このアテネの人たちの反応を見てください。ある人たちはこのすばらしい救いを信じようとはしませんでした。17：32に「死者の復活のことを聞くと、ある者たちはあざ笑い、ほかの者たちは、「このことについては、またいつか聞くことにしよう」と言った。」とあります。主イエスの救いを嘲ったのです。思い出しませんか？皆さん。主イエス・キリストが十字架に掛かって、私たち人間のその罪のさばきを受けるために処刑場であったあのゴルゴダに向かって行った時の様子を。主イエス・キリストが十字架を負ってゴルゴダへと歩いていったときに、人々はどのようにイエスを迎えましたか？人々はイエスを嘲りました。十字架に磔にされ苦しみを受けておられたときも、人々はこの救い主なる神を嘲りました。こんなすばらしい救いを備えてくださったのに、どの時代でも、どの場所でも、多くの人々がこの主を嘲り、この主を拒み続けるのです。人類に与えられた唯一の救いであるにも関わらず、この救い主を拒み続けるのです。アテネでもそうでした。ここでおられる皆さんがそんなことをなさらないことを心から願います。

あなたのために救い主がいのちを捨ててくださった。あなたに完全な救いを備えてくださった。神はあなたが罪を悔い改めてこの救いを頂くようにと待ってくださっているのに、なぜ、この方に背を向け続けるのかです。この方以外にはだれによっても救いはありません。この方だけがあなたの希望です。なぜなら、いのちを捨ててくださった救い主はこのイエス・キリスト以外にいないからです。なぜ、この救いを拒むのでしょうか？ある人たちはこうでした。32節「ほかの者たちは、「このことについては、またいつか聞くことにしよう」と言った。」とあります。ある人たちは言ったのです。「今日は止めます。もっと考えて、もっと先に信じるかもしれません。」と。これも変わっていません。もしかすると、この中でイエス・キリストを信じていない方がおられるかもしれません。神があなたの心に働いて、そして、今、この瞬間に、罪を悔い改めてこの救いを受け入れなさいとあなたの心に迫ってくださっています。それにも拘わらずあなたはこう言うのです。「また、いつか…、今度にしよう」と。悲しいことに、その今度があるかどうかは分からないのです。なぜ、主が招いてくださっているそのときに答えないのですか？なぜ、救いを与えようとしてくださっているときにその救いに応じないのですか？皆さん、このような人たちであってはならないです！

主はあなたに救いを与えてくださいます。完全な罪の赦しを与えてくださいます。その救いを求めて主の前に出て来ることです。心から罪を悔い改めて、あなたの身代わりとなって死んでよみがえられた救い主イエス・キリストを受け入れることです。イエス・キリスト、主イエス・キリスト、あなたを救うためにこの世に人として来てくださった創造主なる神、今すぐ、神に逆らう罪を悔い改めて、この主を心から信じてこの罪の赦しを頂くことです。この主なる主が備えてくださった完全な救いを決してないがしろにしないでください。あなたが心から受け入れるならば救いは与えられます。

もし、この中でまだイエスを信じていない方がおられるなら、いや、自分は信じていると思っても、もしかすると、信じていない方がいるかもしれません。どうですか、皆さん？主はあなたを変えてくださっていますか？あなたの主に対する愛は増し加わっていますか？自分の救いは本物かどうかをしっかりと考えなければいけません。

救われている皆さん、このメッセージを私たちは語るのです。これが天使が羊飼いに与え、そして、

救いに与ったパウロが人々に語ったメッセージです。神の救いのメッセージです。そのメッセージを神はあなたに託してくださったのです。何を語るのか、分かりますね！救い主イエス・キリストを！

どうぞ、この一週間も語り続けてください。これが神が私たちにくださった救いのメッセージです。信じる人が起こされることを願いながら、この一週間、主に用いられ続けていきましょう。

《考えましょう》

1. 「主」の意味を説明してください。
2. 主なる神に対して、人にはどのような責任があるのでしょうか？
3. 神に逆らう罪人がさばかれるのはどうしてですか？ その理由を挙げてください。
4. 神が人としてこの世に来られた理由を挙げてください。
5. あなたはこの「主イエス」を、あなたの神、あなたの救い主として心から信じておられますか？